

日本建築家協会が要望書

検見川送信所を千葉県文化財に

朝日(千葉)日報報じる

日本建築家協会が7月23日、千葉市長と千葉市教育委員会委員長・教育長に対し、「検見川送信所の千葉市指定文化財指定に関する要望書」を、千葉市議会議長に対し、「検見川送信所の千葉市指定文化財指定の要望に関する陳情書」を提出した。

同協会関東甲信越支部保存問題委員会で委員を務める安達文宏さんによる

検見川送信所を知る会会報4号

J1AA通信

2008年8月16日(土)発行

と、市議会への陳情については9月12日の常任委員会審査後、結果が知らされるという。

なお、この陳情書提出については7月27日付「千葉日報」と8月9日付「朝日新聞」でも詳しく報じられた。

平凡を愛した非凡な建築家

30日イベントで上映

30日のイベント「検見川送信所、文化遺産宣言」では検見川送信所を設計したモダニズム建築の先駆者、吉田鉄郎の生涯を描くドキュメンタリー「平凡なるもの」建築家 吉田鉄郎物語」を上映する。

これは5月に富山テレビで放送されたが、その後大きな評判を呼んだ。2月の「検見川送信所を知る会」主催のイベントで基調講演を行った建築史家の倉方俊輔さんも自身のブログで「他地域の方がこれを見られないのは、とても残念なことだ。約50分間の上映が終わって、建築という存在の面白さを教えられたような気がした」と書いている。吉田は明治27年(1894)

検見川送信所の設計者でモダニズム建築の先駆者、吉田鉄郎。「平凡な建物をいっぱい建てました」という言葉を残した



4年(5月18日、富山県旧福野町(現在の南砺市)生まれ、大正8年(1919年)、

東京帝国大学卒業後、通信省に入省し、数多くの通信建築を手がけた。番組は一般にはわかりにくさもある吉田建築、そして、人間・吉田鉄郎の魅力をしつかり

伝えており、ひとつの作品として面白い。彼の言葉にこんなものがある。「平凡な建物をいっぱい建てました」

吉田は機能を追求しながらも、彼の美意識を反映させた建物を数多く建てた。代表作・東京中央郵便局はその好例だ。日本の住宅のよさを上手く取り入れながら、当時の新素材だったコンクリートを取り入れた。いろんなものを追求していくと、シンプルになる。それゆえ、外観には装飾はまったくなく、平凡な建物ということになる。だが、そこに

至るまでの思想は奥深い。ドイツ語では吉田がドイツ語で出版した「日本の住宅」・「日本の庭園」・「日本の建築」の出版元を訪れ、吉田の生原稿を発見する。これは当たりをつけてロケに出かけたのかと思いきや、制作陣は「行けば何かあるだろう」・「くらしい感覚で出かけたそつだ。まさに大発見だった。

制作者が行間に折り込んだものを読み取っていけば、「今を生きる僕ら」が危機にある吉田建築に対し、何をすべきか、自ずと分かっていくはずだ。

検見川送信所とは

所在地は千葉市花見川区検見川町の2069。吉田鉄郎氏が設計し、1926年(大正15年)竣工した貴重なコンクリート建築。コーナーや窓枠に丸みがつけられ、直線的な雨樋とのコントラストが絶妙。コールサインは日本第1号と表

す「J1AA」。1930年(昭和5年)10月27日にはロンドン海軍軍縮会議の締結を記念した浜口雄幸首相の演説を米英に届け、これが日本初の国際放送となった。戦後も通信技術の向上に貢献しましたが、1979年(昭和54年)閉局。現在は廃墟となっている。

発行元：検見川送信所を知る会

代表・仲佐秀雄

〒262-0026
千葉市花見川区瑞穂2-1-1・20-908
&ファクス 043(276)0444
<http://kemigawaradio.web.fc2.com/>
メール kemigawamusen@mail.goo.ne.jp